

しち てん はっ き 七 転 八 起

校訓：自主・協同・創造

学校通信 NO. 13
令和5年11月29日

言葉を味方にしよう

いよいよ12月です。12月は1年の締めくくりの月です。今回は、言葉を面白く学び、愉快的気持ちで言葉に接していけば、「言葉は一生の味方」となります。そんな言葉の大切さについて書いてみたいと思います。



私たちが普段使っている日本語を大きく分けると、「話し言葉」と「書き言葉」、そして「打ち言葉」になります。「話し言葉」には、「話し手」と「聞き手」がいます。皆さんが話し手だとすると、聞き手のほとんどが、友達や家族といった、皆さんのことをよく知っている人たちでしょう。皆さんは、その人たちと時間や空間、情報を共有していますから「言わなくてもわかること」がたくさんあります。時には、「あれ」というだけで伝えたいことが相手に伝わったりします。相手の様子を見ながら、繰り返したり、言い直したりもできます。「書き言葉」の場合は、「書き手」と「読み手」がいます。そこで、皆さんが書き手の場合、「読み手」は皆さんのことを知っている人ばかりとは限りません。「言わなくてもわかること」はほとんどないので、「伝えたい内容」を理解してもらうには、丁寧にわかりやすく説明する必要があるのです。やはり「書く」のは面倒だと思いますよね。しかし、書き言葉には話し言葉にはないメリットがあります。それは、「伝えたい内容を記録として残す」こと。話した言葉は、その場限りで消えてしまいがちですが、書いた言葉は、遠く離れている人や、違う時代を生きる人にも「伝えたい内容を届ける」ことができます。時間と空間を超えて残るのです。そして、デジタルツールの進化とともに登場したのが、SNSなどインターネット上で使う「打ち言葉」です。文字で表現するので「書き言葉」に近いものの、情報量が少なく、くだけた文体や仲間内だけで通じる言葉、絵文字など多用するのは「話し言葉」のようでもあり、今のところは「話し言葉」と「書き言葉」の「中間」に位置しています。使い方は実に多様なので、SNSが得意な皆さんの「発想」と「ひらめき」で、これからもどんどん変化する可能性があります。文を書く時は、こうした特性を理解し、皆さんが「書き手」なのか「読み手」なのか、「視点」をはっきりと意識することが重要です。皆さんが書き手なら、「どう書けば、言いたいことが読み手に伝わるか」と考えながら書きます。読み手なら、「書き手が伝えたいことは何か」と考えながら読みます。そうやって、普段から「視点」を意識して、文を「書く」「読む」習慣をつけると、「考えて書く力」がつくのです。

「書き言葉」のスキルは、「話し言葉」や「打ち言葉」にも反映され、皆さんの言葉の世界は繊細で豊かになります。すると、言葉を使うことが面白くなって、書くことばかりか、読書やお喋り、SNSも楽しくなり言葉が皆さんの一生の味方となってくれることでしょう。

校長 高森 伸彦

県中学校駅伝競走大会で男子4位入賞！！近畿大会に！！

11月18日(土)、兵庫県豊岡市日高町奥神鍋で兵庫県中学校総合体育大会駅伝競走大会が開催され、男子チーム・女子チームが共に出場しました。女子は18位、男子は4位に入賞しました。体調不良者が出て、メンバーの一部が入れ替わりましたが、粘り強い走りで近畿中学校駅伝競走大会の出場権(上位5チーム)を獲得しました。

12月3日(日)、和歌山で行われる近畿中学校駅伝競走大会でも存分に力を発揮してきてください。

